

令和7年度第2回 国土交通省大阪航空局 総合評価等に関する委員会
審議概要

開催日及び場所	令和7年10月30日（木）（大阪航空局 会議室B・C）
委 員 員	委員長 古阪 秀三（立命館大学客員教授） 委 員 鎌田 敏郎（大阪大学大学院工学研究科教授）
内 容	<p>審議事項</p> <p>(1) 「北九州空港進入灯橋梁改良工事」 ・技術提案のテーマ設定及び評価基準等の妥当性</p> <p>(2) 「大阪航空局工事調達における総合評価落札方式の実施方針」の改定について 「建設コンサルタント業務等におけるプロポーザル方式及び総合評価落札方式の運用実施方針」の改定について</p>
委員からの意見・質問	意見・質問 別紙【議事要旨】のとおり
委員会による具申内容	審議事項について内容を了承

【議事要旨】委員からの主な意見・質問

審議事項 (1) 「北九州空港進入灯橋梁改良工事」

(質問) 1日ごとの施工可能時間が4時間となっており、船で生コンを運搬することも考慮した施工期間となっているか。

(回答) 考慮している。下部工の杭については1日あたり22mを打設する計画で、1本あたり2日で終え、それを16回繰り返すこととしている。

(質問) 上部工をどこで作るかは想定されているか。

(回答) 対岸の用地の方で作る予定。

(質問) クロスバーは、一体物として架設するのか。

(回答) 基本的にはそのように考えている。200tクレーンの体制としており、吊り上げて架設する。

(質問) この時期の海について、海洋条件や気象条件は検討されているのか。

(回答) 特別厳しい条件ではないと想定している。

(質問) 冬場のコンクリート打設においては、寒冷地ではなくてもヒーターで温めるなどの養生対策を行うことが多いが、真冬での施工となっているが大丈夫なのか。

(回答) 細心の注意を図って施工を行う。

(質問) 鋼管杭の打設について、細切れの施工時間ということでテーマの内容も理解するが、受け台の施工や様々な制約の中でクロスバーを設置することについても工夫される部分があると思われるが、範囲を広げた方が、貴重な技術も拾い上げることができるのではないか。

(回答) テーマを鋼管杭打設に絞っていることについて、限られた施工時間ということの他に、夜間における海上施工の困難性、空港を運用しながら施工するため進入表面抵触を考慮した施工の困難性、海上施工による個別の技術などから、企業の能力を図るうえで鋼管杭打設に注目することにより点数の差が出やすいと考えている。テーマを広くした場合様々な提案が出されるため、点数の差が付き難いと考えている。

(質問) どのくらいの事業社から申請の可能性があると想定されているか。

(回答) コリングスによるところでは13社が該当。直近では、長崎空港及び大分空港での工事について、各々3者から申請が出されている。

(質問) 土木と建築とでは考え方異なるが、どのように考えているか。

(回答) 本件は全体的に土木と考えている。

審議事項 (2) 「大阪航空局工事調達における総合評価落札方式の実施方針」の改定について

「建設コンサルタント業務等におけるプロポーザル方式及び総合評価落札方式の運用実施方針」の改定について

(意見) 土木と建築の違いに注意すると共に、事業者に理解してもらえるように実施してもらいたい。

以上